

船舶事故調査報告書

平成27年12月3日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	同乗者死亡
発生日時	平成26年8月14日 14時00分ごろ
発生場所	岡山県笠岡市白石島北東岸 白石島港沖防波堤東灯台から真方位076°560m付近 (概位 北緯34°24.8′ 東経133°31.5′)
事故の概要	水上オートバイ ^{ジーピー} GP1300 ^{アール} Rは、遊走中、同乗者が落水した際に錨泊中のプレジャーボートに接触して死亡した。
事故調査の経過	平成26年8月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	水上オートバイ GP1300R、0.1トン 251-20618岡山、個人所有 2.51m(Lr)×1.05m×0.43m、FRP ガソリン機関、114.70kW、平成20年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 29歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成24年5月25日 免許証交付日 平成24年5月25日 (平成29年5月24日まで有効) 同乗者 女性 24歳
死傷者等	死亡 1人(同乗者)
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 高潮時
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、知人（以下「同乗者」という。）を後部座席に乗せ、白石島北東岸の砂浜を出発して遊走を開始した。 船長は、同乗者の左手が船長の着用している救命胴衣の左肩部を、右手が右腰部をつかんでいたため、同乗者が落水することはないと思われ、出発場所から約200m東進し、約50～60km/hの速力で右回りに反転して西進を始めた。 船長は、西進後に少し右舵を取って北西進とし、出発地の砂浜まで約2～3mの所で、砂浜に沿って航行するため、約20km/hの速力で

	<p>大きく右旋回した。</p> <p>船長は、右旋回後に北進を始めたとき、船首方に船首を北東に向け錨泊中のプレジャーボート（5.28m (Lr)）を認め、同プレジャーボートに衝突しそうになったので急いで右舵を取ったところ、同乗者の手が離れたことを感じた。</p> <p>船長は、その直後の平成26年8月14日14時00分ごろ、大きな音が聞こえたので、すぐに停船してプレジャーボートの方を見ると、うつ伏せ状態で浮いている同乗者を認めた。</p> <p>船長は、すぐに同乗者の元に泳ぎ着き、同乗者を抱えて本事故を知り駆けつけた知人2人と共に砂浜に助け上げた。</p> <p>同乗者は、船長等による心臓マッサージ及び人工呼吸が行われ、通報により飛来したドクターヘリで病院に搬送され、後に別の病院に移された。</p> <p>同乗者は、頭蓋底骨折により14時00分ごろ死亡したと検案された。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 本船 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、錨泊していたプレジャーボート1隻と本船を含む2隻の水上新オートバイで7人の知人等と、13時50分ごろから白石島北東岸で遊走等を行っていた。</p> <p>本船の定員は、2人であった。</p> <p>船長は、プレジャーボートが本事故発生場所よりも少し北方で錨泊していると思っていた。</p> <p>本船が、北進を始めてから同乗者が落水するまでの時間は約3秒であった。</p> <p>プレジャーボートの所有者は、本事故後、操縦席右舷側の風防がずれていたため、同乗者が同箇所接触したと思った。</p> <p>同乗者は、水着の上に救命胴衣を着用していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>同乗者の死因は、頭蓋底骨折であった。</p> <p>本船は、白石島北東岸において遊走中、船長が、錨泊中のプレジャーボートの至近で右舵を取ったことから、後部座席に座っていた同乗者が落水して同プレジャーボートに接触したものと考えられる。</p> <p>船長は、船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、錨泊中のプレジャーボートに気付くのが遅れ、同プレジャーボートの至近で右舵を取ったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が白石島北東岸において遊走中、船長が、錨泊中のプレジャーボートの至近で右舵を取ったため、後部座席に座っていた</p>

	同乗者が落水して同プレジャーボートに接触したことにより発生した ものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考 えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 水上オートバイを操船する際は、遠心力等を考慮して、急旋回を しないこと。・ 航行前に、周囲の状況を確認しておくこと。

付図1 事故発生経過概略図

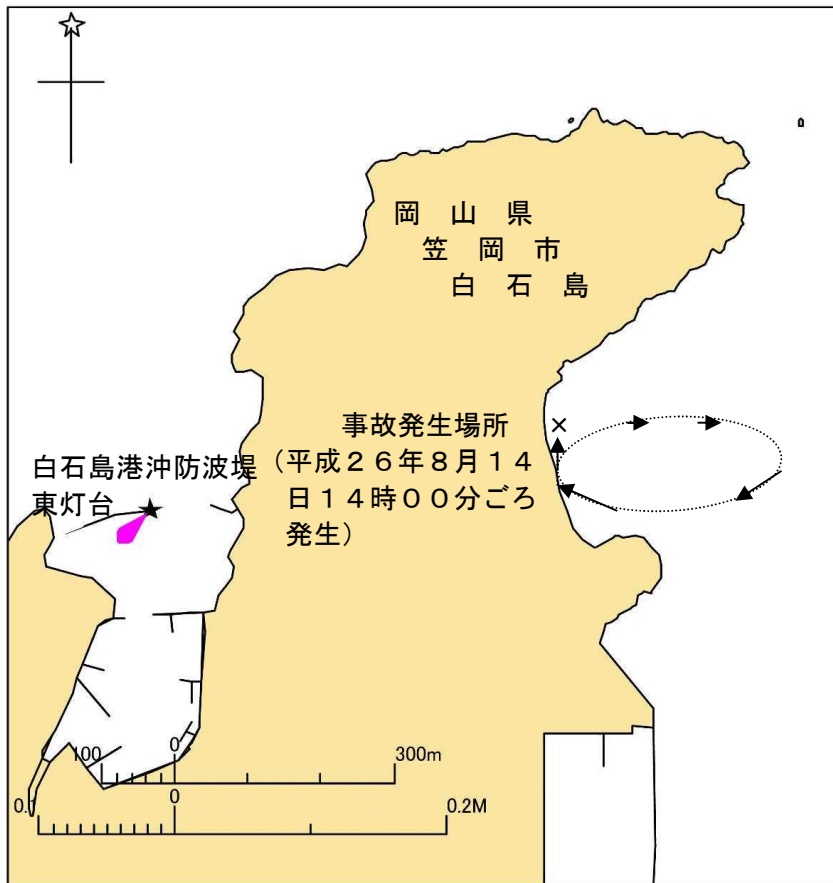


写真1 本船

